1. 3億円の予算
2. 計画ブームと執行体制
3. 開発と土木技術
4. 頭脳の流出

マンスリートピックス

1. 新しい道路，鉄道，ビルディング等数多くの構造物が最新技術の粋を集めて造られ，日本も表面的には世界の一流国なみの姿になりつつある。

しかし，このような素晴しい建設の裏では，われわれの祖先が造り，生み出した重要文化財がいずくともなく流出し，重要建造物や遺跡がこわされていくニュースがこのところひんぱんと聞かれる。

「建設のかげには破壊あり」といわれるが，国民全体の宝である重要文化財を満足に保存しえないようでは，本当の一流国とはいえない。先日も重要建造物を火災から護るための費用が3億円程度しか使われていないということを聞いたが，余りに少なすぎる金額にわが耳をうたがった。

国民の誇りとなり子孫に伝えなければならない重要文化財を，ジェット戦闘機一機の費用にすら足りない金額でしか保護しないような国策をとっているようでは，愛国心等倒底つちかわれるものでないと思う。

日本の明日を築きあげる建設者は，再び造ることのできない先人の残した重要文化財の保護者となって行かねばならないと思う。 [C]

2. 来年度の予算要求時期を迎え，華々しいアドバルーンがマスコミに乗って伝えられている。新国際空港とか万国博や冬期オリンピックや山陽新幹線，7600 kmの国土開発幹線自動車法の新法律を基盤とする五道の着工等の既定事実のものから，東京，大阪，名古屋の都市高速5ヵ年計画，都市再開発や宅地開発をねらう都市開発公団，積極的な上・下水道計画，繰上げ施工をねらう治水関係事業等々数えればきりがないが，財政問題を棚上げすれば楽しいもの許りである。しかし，ここで問題にしたいのはその執行体制である。単なる施設計画のみならず建設事業が，地域経済に，また社会にいかに関連して考えられるべきかに論及できる計画マンの養成や，発註機関の技術体制の確立，責任施工論，コンサルタント問題，研究部門のあり方，大学教育のあり方等，本誌の特長になったテーマが今こそ最大の関心事になったことをひしひしと感ずる。これらのことを考えると決して楽しさに浮れておるわけにはゆかない。われわれ自身がまともに取組まないと，誰もやってくれないことを知らなければならない。 [J]

3. 現在，都市といわず農村といわず“すべての地域は開発を待ち焦れている”状態にあると思う。都市地域はあい路の打開，生活環境の整備，産業公害の排除のため，農村地域は都市地域との格差是正のために，おのおの抜き差しならない事態に立ち至り，これらの目的のために土木技術は全力をあげて日々莫大な労力，財力，および物資を投入し対処しているのが現状であろう。いつの日か現実の悪条件が改善されるべきであるのに，果たしていつの日かと自問せずにはいられない。このことは何も土木技術のみの責任ではないが，直接に開発事業の基盤形成に従事している土木技術は，責任の多くを負わねばならないものであろう。「国土総合開発法」が昭和25年に成立して以来，民主主義体制下における開発の歴史は今年で16年を数えるが，いまだに悪循環的様相が断ち切られそうな気配を示さないのは，真に有効な，価値ある開発の実施がきわめて少ないことを物語るものであろう。

“価値ある開発計画（千里の馬）”が誕生しないのか，さりとも“世に伯楽”の不在なりしや？

4. 日本の頭脳の流出が世の話題にのぼり始めてから久しい。しかし，現実にはその様相はおとろえることなく，今日ではわが国の研究体勢を維持するのに支障をきたす分野まで現われる始末である。わが土木の分野においても最近は海外へ出てゆく人も増え，現地でも活躍していると聞く。視野を広く，国際交流の場で大きな成果を上げるためにも，今後ともこの傾向は続くだろうし，また喜ぶべきことかも知れないが，この間の事情に明るい人々の声として，長期の滞在と，経済的な安定，家庭生活の充実が何よりもその成果をあげるため必要なことであるとしている。旅行と生活は別なものだということを十分心すべきであろう。 [E]